

4. まちづくり勉強会の参加者募集

昨年度に引き続き、今年度も勉強会を開催します。

今年度のまちづくり活動のテーマは「瑞慶覧まちづくりハンドブック（手引書）をみんなで作っていきましょう」です。

地主の皆さまだけでなく、ご家族の方にも勉強会にお気軽にご参加いただきたいと考えております。

お忙しいとは存じますが、ご家族のかた、お知り合いの地主のかた、皆さまお誘い合わせのうえ、どうぞお気軽にご参加くださいますようお願いいたします。



勉強会風景

◆連絡先：下記のいずれかにご連絡ください。

- ・宜野湾市役所 基地政策部 基地跡地対策課 TEL (098) 893-4401 (直通) 担当：渡嘉敷・仲村
- ・宜野湾市軍用地等地主会 TEL (098) 893-5077

5. 地主会会長のあいさつ

平成14年度から跡地利用に対する活動を進め、今年度は『瑞慶覧まちづくりハンドブック』を作成しますが、我々地権者も考え方を変えないといけません。

他にも返還予定地区はあります。返還時期が決まれば、協議会などの様々な組織を立ち上げて跡地利用に向けて進めていくこともできますが、我々にはそういった組織もありません。

これまでの勉強会等で学んだ多くの情報の積み重ねをハンドブックとして家族や子や孫のために大きな財産として残すといったとらえ方をすれば、もう少し希望ももっていただけるかと思えます。

今年度も勉強会を行ってまいります。毎年同じことをやって進まないと思われる方もおられるかもしれませんが、参加者が少ないと、少数の意見がややもすると地権者の意見となりますので、それを避けるためにもぜひ前向きに考えていただいて今年度の勉強会等の活動に参加いただくようお願いいたします。



会場風景

今回の懇談会の参加者は25名でした。

今後も、まちづくり活動への参加など、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ニュース等に関する問い合わせ

宜野湾市基地政策部基地跡地対策課 担当：渡嘉敷、仲村
TEL：098-893-4401 (直通) FAX：098-892-7022

キャンプ瑞慶覧返還予定地区 まちづくりニュース

発行：宜野湾市基地政策部基地跡地対策課

TEL 098-893-4401 (直通)

2011年(平成23年)11月

Vol. 29

《本号の概要》

平成23年度のまちづくり活動がスタートします。

キャンプ瑞慶覧返還予定地区は、返還後の跡地利用に備えて、地主の皆さんが主役となるまちづくりを進めています。

今年度の主なまちづくり活動は、本地区のまちづくりに関わる人が手引き書として活用できる内容を盛り込んだ『瑞慶覧まちづくりハンドブック』を完成することです。

平成23年10月27日(木)には、そのスタートとして、【平成23年度 第1回まちづくり懇談会】を開催しました。

本号では、会議の結果を簡単にご報告します。

1. 基地政策部長あいさつ
2. 平成23年度のまちづくり活動について
3. 勉強会の参加者募集
4. まちづくり情報
5. 意見交換、その他
6. 地主会会長のあいさつ



基地政策部長挨拶



地主会会長挨拶

1. 市基地政策部長あいさつ

ご承知のとおり本地区は平成8年のSACO最終報告で返還合意され、それを受けて地主会のご協力をいただきながら地権者の皆さんと行政の協働体制により返還後の跡地利用計画の検討を進めてまいりました。

これまでにまちづくりの将来像や方向性を示した「まちづくり基本構想」、「まちづくり基本計画」を策定してきましたが、今年度はこれまでの様々な取組みを踏まえて、まちづくりに活用するための『瑞慶覧まちづくりハンドブック』を作成いたします。

また、今後とも皆さんの意見を踏まえつつ米軍再編に伴う状況等を見極めながら、引き続き合意形成活動を進めていきたいと思っております。

最後に、今年度は非常に大事な時期です。来年3月に沖振法や軍転特措法が期限切れとなり、これに代わる(仮)跡地利用推進法の制定に向け県知事を先頭に関係市町村長が一体となって国に要請活動を行っていますが非常に厳しい状況が続いており、そういった意味でも今後とも皆さんのご協力をお願いいたします。

2. 今年度のまちづくり活動について

市と地主会では、昨年度に引き続き、市民や若手の地主等の参画を歓迎したまちづくり勉強会等を実施した上で、瑞慶覧のまちづくりについて考える地主を1人でも多く発掘していきます。また、今年度は、昨年度に収集した基礎資料を活用しながら、勉強会の場をとおして「瑞慶覧まちづくりハンドブック（手引書）」を作成します。

今年度の主な活動①…地主の合意形成活動（全体）

◆地主の合意形成活動ってなぜ必要？

現時点は、返還の具体的な時期は決まっています。一方で、返還が決まったら、跡地利用（区画整理）の実施に向け、「どんなまちを目指すのか」「誰が施行者になるのか」「土地利用計画、道路計画、公園緑地計画はどう考えるか」「減歩率をどの程度まで許容しながらまちの付加価値を高めていくのか」「よいまちにするためにどんな手法を使うのか」等々、いろいろなことを地主間で話し合い、合意し、前に進んでいく必要があります。

では、地主のみなさんが自分たちのために、返還前にやっておくべきことって何でしょうか。それは、返還後に決めていかなければならない様々なことについて、今のうちから知識を得たり、瑞慶覧に合った計画や方法を考えたり、自分なりの考えを持ちたりすることを、1人でも多くの地主が行うことが、返還後の合意形成を円滑に進めていく近道ではないでしょうか。

市では、このような行動を後押しするために、今年度も地主の合意形成活動を行います。（活動内容は懇談会資料の2頁をご覧ください）

今年度の主な活動②…瑞慶覧まちづくりハンドブック（手引書）の作成

◆瑞慶覧まちづくりハンドブックってなぜ必要？

「瑞慶覧まちづくりハンドブック」を作成する目的は、主に3点あります。1つめは、「今までのまちづくり活動で積み重ねてきたことを記録に残すこと」、2つめは、「これからのまちづくり活動で考えていくべきことを記録に残すこと」、3つめは「これからまちづくりに参加する人が、ハンドブックの内容を共有することによって、まちづくりが円滑に進むこと」です。

さらにいうと、「今後予想される状況の変化」や「地主が知りたいこと」を踏まえ内容が更新され、多くの地主が常に共有できるハンドブックとして役に立ち続けることを目指しています。

このような取組の背景には、まちづくり計画を作り上げた平成14～15年度の頃の取組を知っている地主が、地主の代替わり等により今後少なくなっていくことや、市民や若手地主などの新たな参加を促す際に「共有してほしいこと」をまとめておく必要があること、などが挙げられます。

いずれにしても、まちづくりに参加する方が役に立つ内容にしていきたいと思います。そのためには、主な使い手である地主の参加が不可欠です。自分たちのために、子や孫のために、使い続けられるハンドブックを作成しましょう。（ハンドブックの構成は懇談会資料の4～5頁をご覧ください）

3. 質疑応答



質問：地主が最も知りたいことの1つが返還時期です。現在分かる範囲でよいので最新の情報を教えてほしい。

回答：返還予定地の返還時期について知事は、普天間飛行場の返還とその他の返還予定地とは切り離してほしいと国に要望していますが、日米両政府は普天間飛行場の返還とパッケージだと考えているようです。地主会としては、細切れ返還は困るので、キャンプ瑞慶覧全体と一緒に返還してほしいと、国に要望しています。



質問：本地区が返還されないのは、普天間飛行場とのパッケージに起因しているのではなく、地主会を通して地主自らが、本地区のみの先行返還を反対しているからではないのか。

回答：本地区は、平成8年のSACO合意で返還合意されました。その後、平成18年に「再編実施のための日米のロードマップ」が公表され、返還について日米間で再協議しているので、本地区の返還についても動きが止まっている、と国から聞いています。



質問：線形が決まっていない中部縦貫道路、申し出換地手法、地区計画などは、ハンドブックの中でどう取り扱われるのか。

回答：中部縦貫道路は上位計画として明確に位置づけられ次第、公共施設管理者負担金をもらい、区画整理の収入会計に計上することが一般的です。申し出換地は、今後地主のみなさんが勉強し賛同するのであれば使うこともできます。地区計画について、ハンドブックでは計画内容をつくるというより、つくる方向性を示すことを考えています。いずれにしてもハンドブックでは、今までの取組で得たものを無駄にしない、というつもりで作成を支援したいと考えています。



質問：次年度以降のまちづくり活動について。いつ返還がされるか分からないのに何を勉強するのか。今までの取組を継続するだけでは参加者が減るばかりなので、まちづくり参加者をテーマ別にグループ分けしてグループ長を決めて進めるなど、新しい試みをしてみてはどうか。

回答：返還時期がみえなくても、まちづくり活動は継続することが大事だと考えています。まちづくり体制等、地主のみなさんのアイデアについては大歓迎です。取り入れながら、よりよい活動にしていきたいと考えています。